

Math Math 算数

Math Math 数学

算数・数学だより
福島県教育庁義務教育課
令和7年8月27日発行
第8号

全国学力・学習状況調査の結果を徹底活用！（その1）

全国学力・学習状況調査(以下:全国学調)の結果が公表され、算数・数学の学力低下が全国的な課題であることが浮き彫りになりました。先生方は御自分の学校の結果を御覧になって、どのように捉えましたか？

＜令和7年度全国学調の算数・数学の結果＞

	福島県平均 正答率	全国平均 正答率	福島県平均 正答数	全国平均 正答数
算数	55	58.0	8.8/16	9.3/16
数学	45	48.3	6.8/15	7.2/15

「うちの学校は県の平均よりも下回っていて困ったなあ・・・」、「去年よりも正答率が上がってよかったあ〜」など、平均正答率を比べるだけでは、調査の振り返りにはなりません。全国学調の結果を踏まえ、授業改善につなげていくことが大切です。今号と次号では、全国学調の結果を徹底活用するための視点をお伝えします。

○ 全国的な課題を把握するために



「解説資料」「報告書(授業アイデア例を含む)」を読み、調査問題の出題の趣旨や、学習指導に当たって大切なことを確認しましょう。



解説資料は、全国学調の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成されたものです。調査問題がどのような主旨で出題されているのか、解答類型として正答や準正答、予想される誤答について取り上げています。

また、解説資料にある「調査問題の枠組み」(算数:P6~7、数学:P6~7)を読むと、説明の記述式には、

①事柄・事実の説明、②方法・手順の説明、③理由の説明、の3種類の説明があることが分かります。普段の授業で子どもたちに説明や発表をさせる際、どの種類の説明を求めているのか、それぞれの説明にはどんな要素が含まれていなければならないのか、教師自身が意識する必要があります。この3つの説明については、授業の中で意図的に設定していきたいですね。

そして、解説資料や報告書等を活用するためには、子どもたちの「調査問題の解答用紙」のコピーやスキャンデータを保管しておくことが効果的です。全国学調の結果は、回答種類の形で返却されますが、子どもが具体的にどのような回答をしたのかを確認することはできません。解答用紙のコピーやスキャンデータを用いながら、指導改善のための振り返りをしてください。

(3) 問題形式について
問題の形式は、選択式、短答式、記述式の三種類としている。記述式の詳細は、次のとおりである。

(a) 見いだした事柄や事実を説明する問題(事柄・事実の説明)(対応設問:⑥(2))
数量や図形などの考察対象や問題場面について、成り立つと予想される事柄や事実を見いだし説明する問題を出題し、それを的確に捉え直し、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する力をみることにした。
事柄を数学的に表現することは、後の学習において逆の意味を吟味したり、解の吟味の必要性に気づいたりするなど、論理的に考えを進めながら新たな知識を習得できるようにする上で大切である。そこで、「○○ならば、△△になる。」のような形で、「前提(○○)」と、それによって説明される「結論(△△)」の両方を記述することを解答として求めた。

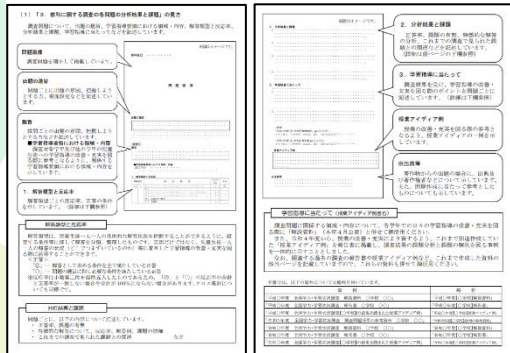
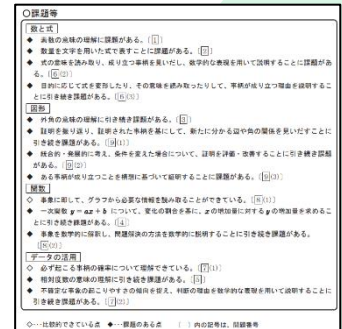
(b) 事柄を調べる方法や手順を説明する問題(方法・手順の説明)(対応設問:⑧(2))
事象について、数学的に考察する場面でのアプローチの方法や手順を説明する問題を出題し、構想を立てたり、それを評価・改善したりする力をみることにした。
他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったりする上で、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりすることが大切である。そこで、「用いるもの」(表、式、グラフ)を明確にした上で、その「用い方」(x座標がある値となるときのy座標の値を読み取るなど)を記述することを解答として求めた。

(c) 事柄が成り立つ理由を説明する問題(理由の説明)(対応設問:⑥(3)、⑦(2)、⑨(3))
説明すべき事柄について、その根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明する問題を出題し、論理的な思考力や表現力をみることにした。
ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘することが大切である。そこで、「○○であるから、△△である。」のような形で、「根拠(○○)」と、「成り立つ事柄(△△)」の両方を記述することを解答として求めた。
なお、理由の説明の問題では、「示された説明すべき事柄の根拠を記述する形式(e-1)」と、「説明すべき事柄を判断し、その根拠を記述する形式(e-2)」の二つのタイプを出題した。
(e-1) ……⑥(3)、⑨(3)
(e-2) ……⑦(2)



報告書は、全国学調の結果から、各設問の正答率や反応率を踏まえて、各問題についてどのような指導が大切なのか、授業を行う際の指導の流れについて、授業アイデア例も交えながら授業改善の手助けとなるように作成されています。各設問には、「学習指導に当たって」という項目があり、その問題を使って授業をする場合に大切にしたい指導の視点について書かれており、この問題を解けることで、この後どのような活用場面があるのかを示しています。

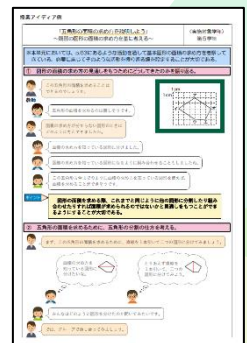
「調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント」(算数:P12~13、数学:P12~13)では、今回の調査で明らかになった課題点を取り上げられています。また、「指導改善のポイント」には課題点に対して、どのような指導のアプローチをしていくべきなのかが、端的に書かれています。日々の授業の改善を図っていくために、まずはここで示されているポイントと、自校の結果を見比べながら読み解いていくことが大切です。



報告書では、各調査問題について「出題の趣旨」「分析結果と課題」「学習指導に当たって」などが示されています。先述したとおり、「学習指導に当たって」では、学習指導の改善・充実を図る際のポイントとして、系統性を意識した指導など、視点の幅を広げるヒントが以下の通り記述されています。

- ① この調査問題を解ける子どもを育成するにはどのような指導が大切なのか
- ② この調査問題を解けることが、次にどのような課題解決につながっていくのか

報告書に含まれている授業アイデア例では、調査問題を題材として授業を行う際に、教師の関わり方としてどのような場面で、どのような働きかけをするとよいかを、具体的に例示しています。授業のポイントとなる部分がマークされている教師の発言や、指導の留意点については、特に注意して読んでみてください。併せて、その教師の働きかけの後に、子どもたちがどのような反応をしているのかも読むことで、どのような気付きや学びを期待して授業をコーディネートするのが分かってきます。授業アイデア例を参考にしながら、実際に調査問題を授業の題材として活用することをおすすめします。



令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>



令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料
<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/index.html>